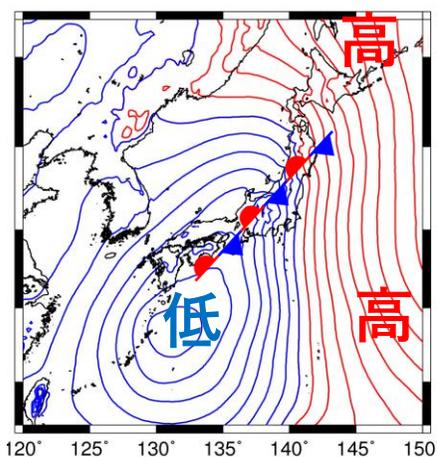
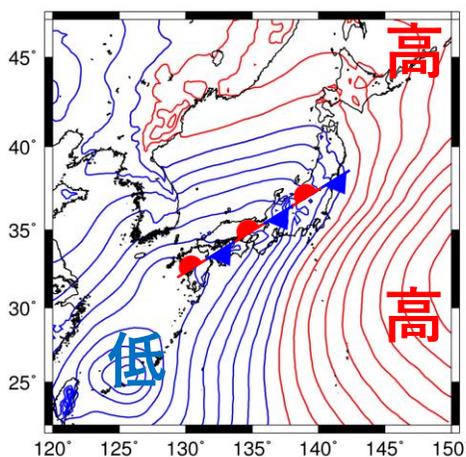


温暖化により岐阜県の豪雨や台風がどう変化するか？

- 岐阜県の100年に1回規模の大雨とそのときの天気図が、温暖化の進行によりどう変化するかを分析しました。岐阜県に前線がかかり、かつ、南西側に低気圧(台風)が存在するような気圧配置時に岐阜県の大雨が特に強まりやすいことが明らかとなりました。
- 関東地方に甚大な被害をもたらした2019年台風19号が、もしこの地域に最悪の進路で接近した場合にどのような大雨になるのか分析しました。その大雨の規模は、伊勢湾台風を上回り、さらに温暖化の影響を考慮することで、木曾三川の水害リスクは一層増すことが明らかとなりました。

現在気候：前線I型

将来気候：前線I型



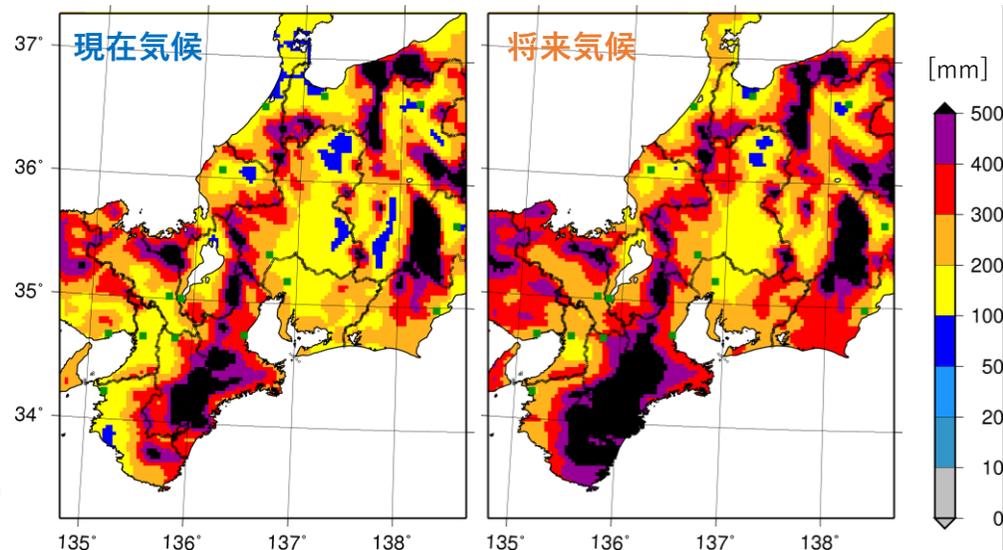
平均日降水量（岐阜）

平均日降水量（岐阜）

235mm ——— +49mm ———> **284mm**

岐阜の豪雨時の特徴的な天気図パターン

将来気候では、岐阜県では前線と低気圧（台風を含む）の組み合わせによる大雨の危険性が特に増加します。



2019年台風19号がもたらす最大積算降水量

将来気候では、木曾三川の上流域で+50～150mmの積算降水量の増加し、水害リスクが増大します。